

1	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	14104002	塩類細胞の分子解剖と分化誘導機構（サブト ラクシヨクローニングの活用と一般細胞生 物学への貢献）	広瀬 茂久（東京工業大学・大学 院生命理工学研究科・教授）	A
<p>（意見等）</p> <p>塩類細胞の分子解剖と分化誘導機構という課題は、単に魚類の環境適応のみならず、一般的な細胞生物学、生理学にとっても大変重要な情報を提供するものである。特に恐山ウグイの塩類細胞に関する成果は優れたもので、細胞一般の恒常性の維持機構を理解する上で大きな貢献といえる。</p> <p>Kチャンネル、ミトコンドリア融合・分裂因子、その他の遺伝子を同定しているが、生理学的知見が不足しているように見える。研究の中間点であるためか研究の内容がやや散漫な印象を受けるものの、研究成果は概ね順調であると判断される。今後の一層の発展に期待したい。</p>				
2	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	14104003	分子・細胞・個体レベルにおける動物の光環 境応答とサーカディアンリズム	深田 吉孝（東京大学・大学院理 学系研究科・教授）	A
<p>（意見等）</p> <p>ニワトリの松果体における時計機構の研究は、着実に成果をあげてきている。さらに結果を比較生物学的に解析するために、ゼブラフィッシュやマウスについても研究を進めている。個々の研究成果はインパクトの高い雑誌に発表されており、順調であるといえる。ただ、異なる材料で分子機構の異なる部分を扱っているので、「時計遺伝子の転写・翻訳に基づく負のフィードバックループ」仮説の全体像が見えてこないくらいがある。今後は、総合的な視点の提供についても留意して研究を進められたい。</p>				